

個々の問題の出題の意図及びその正答率

理科 中学校 第1学年

領域	問題番号			出題の意図	評価の観点			正答率
	大問	小問	通番		科学的な思考	観察・実験の技能・表現	知識・理解	
第一分野	[1]	1	1	光が水中から空気中に入射するとき、光は水と空気の境界面で屈折して進み、目に届くと考えることができる。	○			69.3
		2	2	光の屈折を身近な現象と関係付けて考えることができる。	○			80.3
		3	3	光が空気中から水中に入射するときの、光の進み方を理解している。			○	65.3
	[2]	1	4	圧力という考えと計算の仕方を理解している。			○	29.6
		2	5	同じ質量の物体でも、物体と接触する面積が2倍になると、かかる圧力の大きさは2分の1になると考えることができる。	○			21.2
		3	6	同じ質量のとき、物体の底面積が狭いものほど接触する物体に対して、大きな圧力を与えると考えることができる。	○			84.4
		4	7	圧力のはたらきを生活に適用し、説明することができる。	○			66.4
	[3]	1	8	水溶液の意味を理解している。			○	47.3
		2	9	溶解度の意味を理解している。			○	27.5
		3	10	溶解度の違いを表すグラフから、それぞれの物質の水温と溶解度に関する特徴を見いだすことができる。	○			66.8
	[4]	1	11	ガスバーナーの操作が身に付いている。		○		60.5
		2	12	ロウが液体から固体になったときの体積変化を理解している。			○	70.9
		3	13	水が氷になった時の体積変化と質量変化を理解している。			○	61.0
		4	14	水の状態変化を生活に適用して、ビン入りジュースを凍らせてはいけないわけを考えることができる。	○			68.4
	[5]	1	15	気体の性質とその作り方を理解している。			○	65.0
		2	16	アンモニアの気体の捕集の仕方が身に付いている。		○		61.9
		3	17	その気体の性質に合わせた気体の捕集方法が身に付いている。		○		66.0
第二分野	[6]	1	18	エタノールの役割を理解して、光合成を調べる実験を適切に行うことができる。		○		86.1
		2	19	光合成のはたらきとヨウ素液の反応を関係付けて考えることができる。	○			58.1
		3	20	実験の目的に応じて、使う材料を工夫し実験の方法を計画することができる。		○		34.9
	[7]	1	21	顕微鏡の操作手順が身に付いている。		○		60.9
		2	22	安全面を配慮した顕微鏡の使い方が身に付いている。		○		70.0
		3	23	単子葉類の茎の維管束の並び方を理解している。			○	50.5
		4	24	単子葉類の葉の形態と根の生え方を理解している。			○	63.2
	[8]	1	25	目的と条件を明確にした対照実験を計画することができる。		○		51.3
		2	26	石灰水の反応から、植物も二酸化炭素を出して呼吸しているのではないかと考えることができる。	○			74.6
		3	27	二酸化炭素を検出する方法が身に付いている。		○		61.3